

第6期

# いばらき事業構想 プロジェクト研究



文部科学大臣認定「職業実践力育成プログラム(BP)」  
履修証明プログラム「事業構想プロジェクト研究・100時間コース」

## 2025年9月開講 募集要項

### 参加対象

#### ○ 以下のような課題を持つ企業の方

新しい事業の柱を構築したい・現状を打破し、新たな収益構造を確立したい  
構想力を持つ人材を社内に育成したい  
新事業を創出したいがどう進めていけばよいかわからない

#### ○ 新規事業担当者・事業承継(予定)者・次世代の幹部候補者

---

本プロジェクトは厚生労働省「人への投資促進コース」の助成対象です  
企業派遣の場合、研究費が最大約9割(約100万円)助成されます。  
※諸条件や申請期限あり

「つくば新事業プロジェクト研究」は第5期より「いばらき事業構想プロジェクト研究」に名称変更いたしました



学校法人 先端教育機構

事業構想大学院大学 事業構想研究所

## いばらき事業構想プロジェクト研究



持続可能な経営のためには、新事業の創出やビジネスモデルの変革が不可欠となっています。気候変動やデジタル技術の革新など社会が大きく変容するなか、社会を見据え、多様化する顧客ニーズに合わせた新たな価値創造が求められます。

いばらき事業構想プロジェクト研究第6期では、

- 参加者それぞれが、新しい価値創出につながる自社の事業を構想します。
- アイデアを発想し、理想となる事業構想を構築、最終的に構想計画書にまとめます。
- 講師やゲストから得る知見とともに社会変化を洞察し、新たな価値を創造します。
- 約1年間の研究会を通じて「気づける素養」を磨き、価値創造を担う人材を育成します。

### 新事業の開発を行う研究会

本研究会は、事業構想大学院の事業構想修士課程のカリキュラムのエッセンスを活かし、テーマに基づき、研究参加者の新たな事業構想と構想計画構築を行う研究会です。

### 1人の担当教授と10～15人の研究員

研究会は、原則10～15人の研究員で構成されます。1人の担当教授が本研究期間を通してコーディネートとファシリテーションを行い、研究員の知見を高めながら推進していきます。

### 1年間で24回開催

定例の研究会は、1年間で24回開催。多彩なゲスト講師を招き、研究員の視野を広め視点を磨きながら、研究員各自の新事業創出を支援していきます。

### 研究員の資格を付与

プロジェクト参加者は、本学の事業構想研究所 研究員の資格が付与され、大学院の知やネットワーク、施設を活用できます。研究員は日常の仕事に就きながら、研究会に参加します。



#### 主 担 当 教 員

**鏡 晋吾（かがみ しんご）事業構想大学院大学 教授**

株式会社デルクイ総合研究所 代表取締役／

一般社団法人渋谷区SDGs協会 事務局長／渋谷新聞 副代表

## 法人紹介



学校法人  
**先端教育機構**  
Advanced Academic Agency

先端教育機構が目指すもの

**事業と社会を構想する人材の育成**



学校法人 先端教育機構

**事業構想大学院大学**

**構想を研究し、事業のアイデアを形にする**

理想の姿を描き、実現可能な計画に落とし込む事業構想について日本で唯一体系化したカリキュラムを保有する社会人向け大学院です。2012年の開学以来、600名近い事業構想人材(事業構想修士)を輩出してきました。顧客開発や経営・構想計画について学び、経営資源を活用した実現性と独自性の高い事業計画を構築します。



## 事業構想の考え方

### コミュニケーション

- ・プレゼンテーション
- ・ステークホルダー
- ・社内外、パートナー
- ・わかりやすい説明方法
- ・マーケティング・コミュニケーション

### 構想計画

- ・経営資源の確認
- ・マーケティング戦略
- ・顧客探し
- ・実施調査、確証

## 事業構想

社会での必要性  
社会の中で「種」を見つける

### 発・着・想

- ・アイデア
- ・閃き
- ・気づき

### 構想案

- ・知恵の出し合い
- ・ケースを聞く
- ・情報を集める

### フィールド・リサーチ

- ・手ごたえを感じる
- ・意見を聞く

© HIDEYA AZUMA

## プロジェクト研究 全体概要

本プロジェクトのカリキュラムには、事業構想サイクルのうち、発・着・想、構想案、シミュレーション、リサーチ、計画、投資側とのコミットメントなどが含まれます。これらの研究をしながら、研究員(参加者)は「事業構想計画書」を策定していきます。研究員の皆様と、事業構想ノウハウを持った教授陣・研究の第一人者をゲスト講師として招聘し、三位一体となってプロジェクトを1年間執り行います。

### 01 イノベーションを体系化した唯一のプログラム

新事業の開発を目的とした日本で唯一の大学、事業構想大学院大学の教授陣が、イノベーションに関する豊富な知識や方法を提供し、事業評価や計画を精緻に策定します。

### 02 経営資源を活かし、実践的な事業を構想

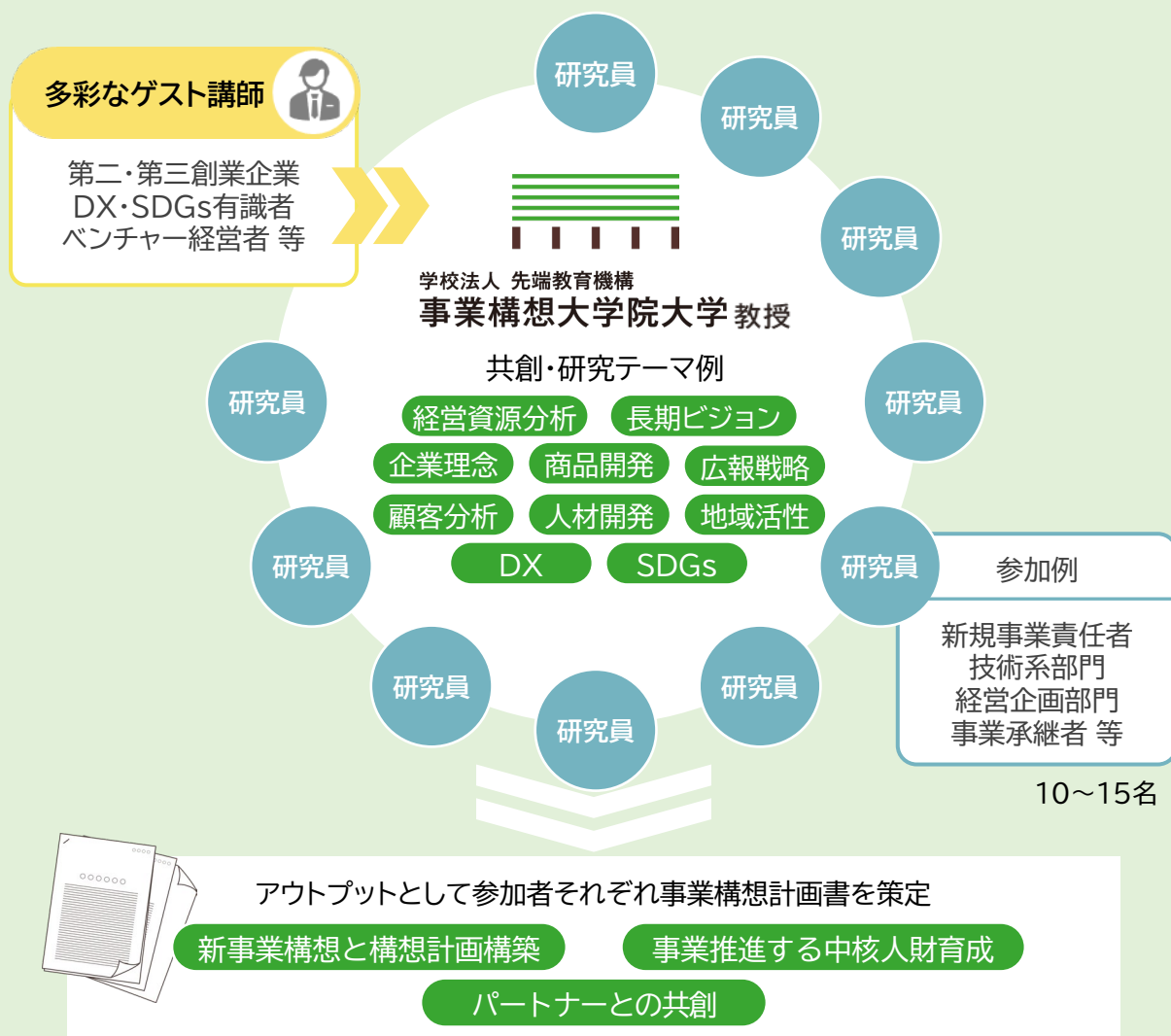
顧客開発など構想計画も、経営資源を活用した実現性が高く独自性の強いものを構築します。

### 03 最先端分野の有識者、第一人者とのネットワーク

本学がネットワークを有する、SDGsやDXなどの最先端分野における第一人者(官公庁・有識者・実践者・学者・起業家)からゲスト講師を招聘し、イノベーション支援を行います。

### 04 異業種との共創

研究会は異業種の研究員で構成されます。自社の業界領域を超えた、新たな価値創造を加速します。



## 「プロジェクト研究」の特徴

### 最先端分野のゲスト講師・幅広いネットワーク

事業構想大学院大学は出版部門を有しており、SDGsやDXなどの分野における最新事例・第一人者(官公庁・有識者・実践者)とのネットワークを構築しています。本プロジェクト研究において、各分野の本質を理解しながら、新たな事業の開発につなげることを目指します。



### サポート体制



#### 「研究員」としてフィールド・リサーチができる

社会課題をイノベーションを通じて解決する「研究員」としての資格を付与します。社会的に中立な研究員という立場として、ヒアリングやフィールドリサーチを行い、ネットワークを構築することができます。



#### 多彩な人的ネットワークの構築支援

専門家や自治体・官僚などをゲスト講師として招聘し、イノベーションに必要なインプットを行います。また、本学の院生を対象に行っている事業構想スピーチ(P8参照)にもご招待。さらに、本学の教授陣との個別相談や、研究員同士の情報交換で、専門的な視点を取り入れながら、各社/各自の事業構想計画をブラッシュアップすることができます。



#### メディア・プロモーション支援

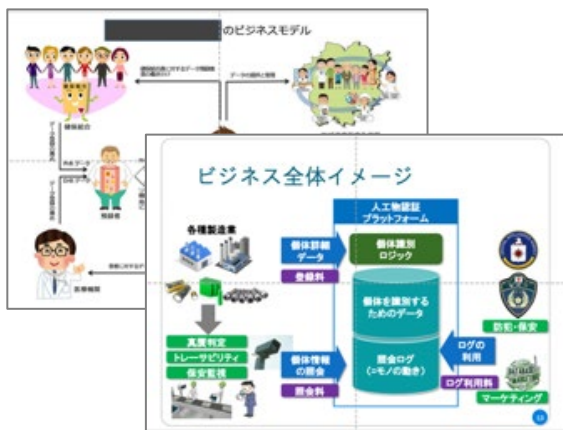
優れた成果は月刊事業構想/事業構想オンラインをはじめとするメディアへ掲載し、プロモーションを支援します。

## 最終的なアウトプット「事業構想計画書」

定例研究会を中心に個別指導も受けながら、各研究員が1人1つずつ、「事業構想計画」を策定します。

### 事業構想計画書の構成例

- **基本構想**  
概要、社会的背景、自社の新たな知財、基本的な事業構造
- **プロダクト開発構想**  
コンセプト／市場性／価格戦略／製造・仕入れ構想／ブランド戦略  
差異化／フィールドリサーチ(顧客インサイト分析)
- **営業、販売構想計画**  
販売構想(チャネル・販促)／普及・維持構想／フィールドリサーチ
- **事業組織構想** 組織・人事構想
- **資金構想計画** 概算資金計画
- **マーケティング・コミュニケーション戦略**  
プロモーション戦略／広告・広報戦略／コミュニケーション戦略
- **想定される障害と対策**
- **スケジュール**



## 募集要項

### プロジェクト期間

全24回、実施期間:2025年9月～2026年7月  
原則隔週水曜日開催 1回4時間 13時～17時

### 定員

15名 ※最少実施人数10名

### 会場

つくば研究支援センター  
※一部、事業構想大学院大学東京校での実施やフィールドワークなどもあり

### 対象

自社の経営資源を活かして新事業開発を目指す方

### 申込期限

一次締め切り:2025年7月31日(木)

最終締め切り:2025年8月20日(水)

※定員に達し次第締め切りますので、お早めにお申込みください。

※定員に達しない場合には、募集を延長する場合があります。

その場合、東京開催の新規事業開発プロジェクト研究をご案内する場合があります。

### 申込書類

①研究申込書 / ②個人調書 / ③研究志望書 / ④顔写真(研究員証に使用します)

※すべてフォーマットあり。

### 申込方法

まずは担当者のメールアドレス宛に、申込書を電子メールにてご提出ください。

追って、担当者宛に申込書、個人調書、研究計画書の原本郵送をお願いいたします。

### 研究参加費

120万円／非課税

厚生労働省の新たな助成制度「人への投資促進コース」の活用で  
研究費が最大**100万円**補助 ※諸条件あり

### 主催

主催:学校法人先端教育機構 事業構想大学院大学 事業構想研究所

# スケジュール・カリキュラム

# 確定次第ご案内いたします

## ご参考・カリキュラム例

| テーマ                                                | 目標                                                | 研究内容                                                                                                                                         |
|----------------------------------------------------|---------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 事業構想とは？                                            | チームビルディング                                         | 1年間の活動に向けたオリエンテーション。観光産業、まちづくり、都市工学、MaaS、SDGs、地域デザイン手法、地域力経営、公民共創等のナレッジ習得と、フィールドワークを基に、どのようにアイデアを発想し、事業をデザインしていくかについての概要説明を行っていく。            |
| 事業構想と創造的思考                                         | 事業構想の本質を理解する                                      | 構想の7つの動機／新しい感覚の追求・経験の探求・制度への違和感・社会的課題・思想と哲学・私的な世界観・地域と共同体等の動機的要因から各自の構想動機を誘発していく。<br>インバスケッ演習の実施（グループ演習）                                     |
| クリエイティブ発想法<br>（渡邊信彦先生 2h）                          | 誰でもできる創造的な発想法について実践的に学習する                         | 既存事業内容やメンタルモデルに囚われないアイデアを誘発させるための発想法を学習した上で、グループ演習を行っていく。                                                                                    |
| ビジネスモデル発想法                                         | 構想アイデアをビジネスモデル化して事業構想の骨幹を構築する手法を学習する              | 豊富なビジネスモデル事例の解説を10項目程度受けた後に、講師が作成した仮想ストーリーを題材としてビジネスモデルの作成演習をグループで行っていく。                                                                     |
| マーケティング発想法<br>（中島好美先生 2h）                          | マーケティングの基礎知識を学習してターゲット像の概念を理解する                   | ターゲットセグメンテーション、顧客創造、市場分析、プロモーション等の基礎知識を習得していく。                                                                                               |
| MaaS導入の可能性を探る                                      | 新技術がもたらす様々な矛盾と影響について理解を深め、方向性について模索する。            | EUやロサンゼルス、ロンドン、パリセロナなどの最新事例を参考にしながらインフラ事業としてのMaaSの可能性を議論していく。また、国内ベンチャー企業による電動バイク開発事例などにも触れていく。                                              |
| 地域力とベンチャービジネス                                      | 地域資源を最大化して自治体と民間による共創で起こす地域イノベーションについて理解を深める      | 「株式会社飛騨の森でクマは踊る」や、「面白法人カヤック」などの地域自治体との共創によって新しいビジネスを生む手法について学習していく。<br>後半はグループ演習でアイデア出しを行っていく。                                               |
| SDGsと産業のイノベーション                                    | 農業・自然エネルギーを中心としてSDGsに関する認識を深めてもらいながら新しい産業の事業展開を探る | 日本の農業が抱える問題点を抽出し、SDGsの視点からこれからのあるべき1次産業事業の方向性を議論していく。また大分県等の再生エネルギー事業の学習も交えながら新しい産業の未来像を考えていく。                                               |
| 自然栽培農法と6次産業化<br>（フィールドワーク）<br>鹿嶋パラダイスファーム見学        | 自然栽培農法とその6次産業化の事例をフィールドワークで体感する                   | 完全有機農法で小麦や米、野菜を生産する茨城県鹿嶋市の農業法人「鹿嶋パラダイスファーム」の圃場とビール工場及び直営レストラン、ドーナツ店を訪問し、有機農法と6次産業化に関するフィールド調査を実施する。完全有機農法の可能性と未来を考察する。                       |
| シェアリングエコノミーを考える<br>（ゲスト講師 シェアリングエコノミー協会理事 鏡真吾氏 2h） | 社会課題を解決するためのシェアリングエコノミーについて学習する                   | シェアリング・ビジネスという新しい事業形態について学習していく。後半は鏡氏も交えながらグループ演習を行っていく。                                                                                     |
| DXレジリエント製造業を回復させるDX                                | 業務改善に止まらないDXの新しい活用を考察していく                         | ビジネスチャンスとしてのDXを考察していく。様々な企業によるD2C、B2C、C2C、のケーススタディを参照して、アイデアを拡張させていく。                                                                        |
| ウェルビーイングとヘルスケア<br>（二之宮義泰先生 2h）                     | ウェルビーイングとヘルスケア事業に関する最新の知識と事例を学習していく               | ウェルビーイングとは何か？なぜ、それが必要とされるのか？最新のヘルスケアビジネスとはどこまで進化していくものなのか？地域におけるウェルビーイングとは何を指していけば良いのか？等の最新のナレッジを学習する。後半はグループ演習を行う。                          |
| 第1次中間発表会                                           | 各自の事業構想計画を発表して第三者の評価を受ける                          | 事業構想基礎課程・事業構想拡張課程で学習したナレッジを応用しながら、受講者各自の事業構想計画を発表していく。受講者の職場の上司などの関係者も出席する。                                                                  |
| 先端ベンチャー企業を訪問する<br>（フィールドワーク）<br>OMUSUBI不動産訪問       | 社会課題をビジネスという手法で解決させていく新しいビジネスモデルを体感する             | 卓越したアイデアを実装させるためには精緻なオペレーションのデザインが求められる。空き家問題という社会課題に取り組みながら、「DIY可能賃貸住宅」という新しいビジネスモデルを開発したOMUSUBI不動産を訪問し、社会の問題をビジネスという手段で解決していく手法について学習していく。 |
| 新しい観光事業の戦術                                         | アルベルゴディフーソ、農泊、まち歩きツアー、オタクスクープによる聖地巡礼等の新しい観光事業を学ぶ。 | 兵庫県丹波篠山市のアルベルゴディフーソ事業、新しい農泊の流れや、都市圏で大きな支持を拡大して急成長する「まち歩きツアー」事業モデルの分析など、実践的かつ事業構想のヒントにもなる新しい観光事業について学習する。後半はグループ演習を行う。                        |
| アートとビジネスの融合                                        | アートとビジネスを融合させ、全く新しい切り口でプロダクトアウトを行っていく手法について理解する   | 日本センチュリー交響楽団×オンキヨー×旭酒造のプロジェクトによって生みされた清酒「磨」は、オンキヨーの特殊なアンプを用いて交響曲を醸造樽に響かせ、その振動によって旧来にないフルーティーな日本酒となった。最新のアート&ビジネスの融合という可能性を全員で追求していく。         |
| 事業収益構造の再構築                                         | 受講者各自の事業構想において最も脆弱な部分となるであろう収益構造を最適化させていく         | 価値創出、コストの明確化・コスト管理、収益構造の明確な構造化など、ややもすると曖昧になりやすい部分にフォーカスした学習の実施。                                                                              |
| 事業収支計画<br>（結城英彦先生 2h）                              | 事業構想に於けるアカウンティングとファイナンスを理解する                      | 事業収支計画の構築について学習する。                                                                                                                           |
| まちづくりビジネス<br>エリアマネジメントと実験事業                        | 団地再生、シャッター通の活性化等の事例を通してエリアマネジメントの手法に基づいた事業構想を学ぶ。  | エリアマネジメントによる実験事業というコンセプトを学習していく。地域を限定し、ゴールを設定し、自治体も含むステークホルダーと連携して実験事業を実施するプロセスを、団地再生やシャッター通の活性化といった事例を交えて解説していく。後半はグループ演習。                  |
| 第2次中間発表会<br>（渡邊信彦先生他）                              | 各自の事業構想計画を発表してMPD教員の評価を受ける                        | 第1次中間発表会での反省事項を折り込み、また事業収益構造の精度を高めた事業プランを経験豊かなプロの目で評価してもらう。                                                                                  |
| 事業広報計画の実践                                          | 自らの事業構想計画をどのように社会に広報させていくかの理解。                    | コストを限りなく抑えた「ひとり広報」の手法を習得していく。マスメディアの取材交渉の具体的な手法やニュースリリースの書き方等の個人演習も行っていく。                                                                    |
| 構想計画構築演習1                                          | 収益構造・コスト管理・リスク対策・顧客との関係性構築等を重点的に検討していく            | 個別指導及び全体討議                                                                                                                                   |
| 構想計画構築演習2                                          | パートナー構築・事業オペレーション等の精度を検討していく                      | 個別指導及び全体討議                                                                                                                                   |
| 最終プレゼンテーション                                        | 精度の高い事業構想を発表する                                    | 事業構想計画発表と個別評価及び全体総括。参加者からの感想等                                                                                                                |

# 事業構想大学院大学事業構想研究所の研究員

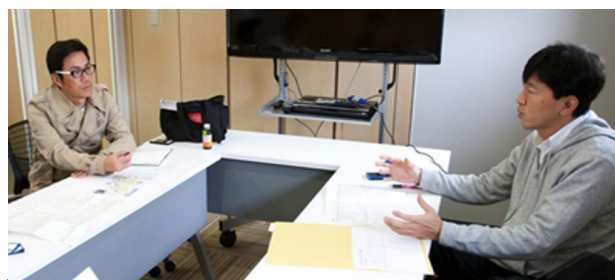
下記の通り、事業構想大学院大学事業構想研究所のプロジェクト研究員の立場が付与されます。



研究員証



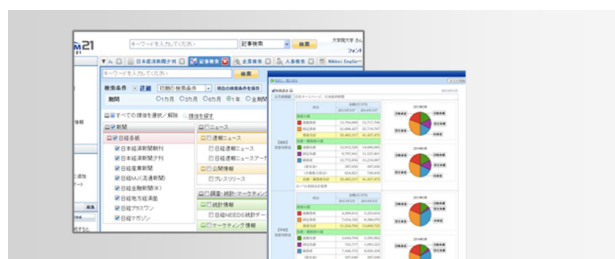
名刺



個別相談



共同研究会への参加 年6回



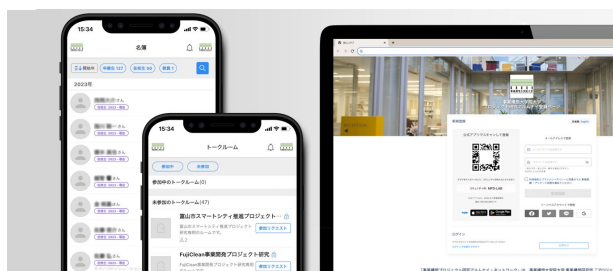
データベースの活用



学内環境・サロンの活用



研究修了証



アルムナインネットワーク

- ・履歴書に研究員の経歴が記載可能。また、プロジェクト終了後には、研究報告書作成など規定要件を満たせば研究修了証を授与。
- ・一部コンテンツのアーカイブ視聴
- ・希望により学会発表や、メディア掲載の申請が可能。
- ・共同研究会とは:研究会の枠を超えて他社・他研究会と意見交換を行い共創。担当教員以外の教員や他県の研究員から構想へのフィードバックを得る。

## 事業構想スピーチ（任意参加）

毎週、水曜日の19時から21時に2時間のスピーチを実施



### 年間40回 各回2時間

各界を代表するキーパーソンから最先端ビジネスモデル・社会モデルを学び「発・着・想」を得て、自身の構想に役立てる。

革新経営者

創業経営者

新規事業責任者

地域活性・実践者

先端企業経営者

先端分野研究者

社会起業家

ブランドマネージャー

クリエイター

都市計画専門家

建築家

ITビジネスリーダー

### 過去の登壇例

※順不同、肩書は取材・登壇当時のもの、写真は一例です。



これまで累計200名以上が登壇。多彩なゲスト教員からヒントを得る。

# 法人向け 人材開発支援助成金（人への投資促進コース）

|        |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                |
|--------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 訓練対象者  | 雇用保険適用事業所における、 <b>雇用保険の被保険者</b>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                |
| 手続きの流れ | <ol style="list-style-type: none"> <li>1 訓練計画の作成・提出【訓練開始の前日から起算して<b>1か月前まで</b>】 <ul style="list-style-type: none"> <li>・「事業内職業能力開発計画」の策定 ※2</li> <li>・「年間職業能力開発計画(様式3号)」の策定</li> <li>・「職業能力開発推進者」の専任</li> <li>・「訓練実施計画届(様式1号)」と必要な書類(後述)を<b>労働局</b>に提出</li> </ul> </li> <li>2. 訓練の実施</li> <li>3. 支給申請書の提出【訓練終了後<b>2か月以内</b>】 <ul style="list-style-type: none"> <li>・「支給申請書」と必要な書類(後述)を<b>労働局</b>に提出</li> </ul> </li> <li>4. 助成金の支給</li> </ol> |

## 厚生労働省の新たな助成制度のご案内

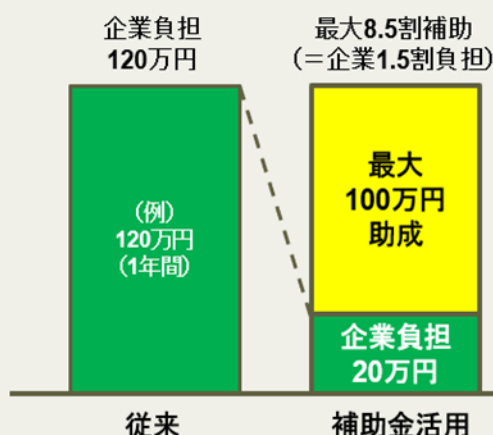
### 厚生労働省「人への投資促進コース」助成制度

今なら、国の制度で、  
研究費が  
最大 **8.5** 割助成されます。

(※条件があります)

※厚生労働省：人材開発支援助成金 人への投資促進コースを活用した場合です。  
諸条件や、申請期限がございます。

## ■事業構想研究所 プロジェクト研究(1年間)のイメージ



専門実践教育訓練の指定番号 指定番号 1321501-2120013-8

専門実践教育訓練講座名 **事業構想プロジェクト研究・100時間コース**

訓練実施機関 事業構想大学院大学

## 法人向け

**人材開発支援助成金** 職業訓練などを実施する事業主等に対して、訓練経費や訓練中の賃金を助成し、労働者のキャリア形成を効果的に促進する制度。

| NEW                      |        | 経費助成                       | 賃金助成                    | 助成額             |
|--------------------------|--------|----------------------------|-------------------------|-----------------|
| ①人への投資促進コース<br>成長分野等人材訓練 | 中小企業   | 受講経費の75%(最大150万円)<br>=90万円 | 960円/h×100h<br>=96,000円 | <b>最大約100万円</b> |
|                          | 中小企業以外 |                            |                         |                 |
| ②特定訓練コース<br>労働生産性向上訓練    | 中小企業   | 受講経費の45%(最大30万円)<br>=30万円  | 760円/h×100h<br>=76,000円 | 最大約38万円         |
|                          | 中小企業以外 | 受講経費の30%(最大20万円)<br>=20万円  | 380円/h×100h<br>=38,000円 | 最大約24万円         |

※諸条件あり

## 個人向け

**専門実践教育訓練給付金** 働く人の主体的で中長期的なキャリア形成を支援し、雇用の安定と再就職の促進を図ることを目的に、教育訓練受講に支払った経費の一部を、ハローワークから支給する制度。

助成額 最大20万円

※諸条件あり

### 個人情報の取り扱いについて

本学が申込書類を通じて取得する個人情報は、

①研究員選考、②合格者発表

③参加手続き、④本学からのお知らせ、

⑤これらに付随する業務

を行う目的のみに事務局および担当教員が利用いたします。

### お問い合わせ

学校法人先端教育機構 事業構想大学院大学 事業構想研究所  
つくば新事業プロジェクト研究担当

〒107-8550 東京都港区南青山3-13-18 313南青山ビル2階

TEL: 03-6278-9031

E-mail: [pjlab@mpd.ac.jp](mailto:pjlab@mpd.ac.jp)



学校法人 先端教育機構

事業構想大学院大学 事業構想研究所